

**令和8年度ニホンジカ大規模捕獲技術実証業務
公募型プロポーザル評価基準**

【評価表】

評価項目		点数	係数	評定点	備考
1 課題認識と目指す姿					
	○ 大規模捕獲技術が普及していない理由や普及の課題が認識できているか。	4	1	4	12点
	○ 「有害鳥獣捕獲ガイドライン（令和8年3月）」を踏まえ、ニホンジカを省力的かつ効率的に捕獲する手法として、鳥獣被害対策における大規模捕獲技術の活用の位置づけが明確に設定されており、その考え方は妥当か。	4	2	8	
2 大規模捕獲技術の実証内容の革新性					
	○ 従来の大規模捕獲手法が抱える課題を整理したうえで、実証する内容が、新しく開発する技術のほか、既存のICT技術と新しいアイデアを組み合わせた技術や新たな仕組みなど新しい発想でその課題を解決しようとするものとなっているか。 ※ 評価は仕様書の2（1）①から④の取組ごとに行う。				32点
	① 実施体制の整備・監理 本業務の円滑な実施に向けた捕獲活動の体制と監理のあり方	4	2	8	
	② 捕獲計画の作成に必要な現状把握 実証地区の選定条件と捕獲計画（捕獲場所・時期・方法等）策定に必要な情報の収集・分析・可視化の手法	4	2	8	
	③ 大規模捕獲の実施 安全かつ効率的なニホンジカの大規模捕獲技術	4	2	8	
	④ 捕獲効果の検証 捕獲計画の検証（捕獲活動による効果等）に必要な情報の収集・分析・可視化の手法	4	2	8	
3 大規模捕獲技術の実証内容の確実性					
	① 実施体制 業務の確実な実施が期待できる体制となっているか。	4	2	8	32点
	② 提案者のスキル・実績・強み 提案者の大規模捕獲技術に係るスキルのほか、これまでの類似業務の適正な実績又は優位性が認められ、技術確立及び実装が期待できるか。	4	2	8	
	② 機動性 実証地域の近隣地域（車で1時間程度）に常駐する事務所がある又は、サテライトオフィスなどを設置する意思も含め、天候などの変化や、不測の事態への対策が具体的に記述されているか。	4	1	4	
	④ 実証する技術の効果分析方法 実証する技術の効果分析に必要なデータとその収集方法は、具体的に盛り込まれているか。	4	1	4	

	⑤ 実施スケジュール 各業務の開始から終了に至るまでの年間スケジュール概要が明確に記載されており、適切な業務実施が期待できるか。	4	2	8	
4 大規模捕獲技術の実証内容の普及性					
	① 大規模捕獲の特性理解 大規模捕獲技術の特性を理解し、この技術の実施を検討する市町等に対して、実行判断に必要なポイントや既存の有害捕獲活動との組み合わせが整理できることが見込まれるか。	4	2	8	12点
	② 大規模捕獲手順書の構成 ①のねらいに即した「大規模捕獲手順書」の構成が提案されているか。	4	1	4	
5 本業務の目的に応じたその他の提案					
	① 各事業の成果を押し上げるために効果的な独自提案がされているか。	4	1	4	4点
6 経費					
	① 経費の内訳が明確であり、妥当性があるか。	4	1	4	8点
	② コストの有効性について、見積価格を基に、次の算定式で判断する。 配点 (8) × (提案者中の最低見積金額) / (当提案者見積金額) ※小数点以下を切り捨て	—	—	4	
評定点合計 (100点満点)				100	

【評点表】

評点	
4 特に優れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準に記した内容になっており、かつ内容が特に優れている ・ 提案内容に工夫が多くみられる ・ 提案の根拠が論理的であり、類似事例の実績を用いている
3 優れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準に記した内容になっており、かつ内容が優れている ・ 提案内容に工夫がみられる ・ 提案の根拠が理論のみ、あるいは類似事例のみとなっている
2 普通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準に記した内容になっている
1 やや劣っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査基準に記した内容となっていない事項があり、代替案もない ・ 提案内容が抽象的であり、具体性に欠ける ・ 提案根拠の説得力が乏しい
0 劣っている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提案内容が抽象的であり、具体性に著しく欠ける

※ 審査項目の評価は5段階評価とし、2項目以上で「0劣っている」の評価が付いた事業者は失格とする。

※ 各委員の評定点の合計点が満点の6割に満たない場合は選定しない。